

世界とつながる、札幌の夏

-PMF2026の見どころと楽しみ方



桑原 辰徳 (くわはら たつり)

公益財団法人パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会 総務課長

札幌市生まれ。2008年、札幌市役所に入庁。病院局、区役所、危機管理対策室、総務局などでの勤務を経て、2025年4月より現職。現在は、法人の管理・運営に関わる幅広い実務を担当している。

前号では、レナード・バーンスタインの意志のもとに生まれたPMFの歴史と理念、そして世界に羽ばたいた修了生たちが再び札幌に戻ってくる「好循環」をご紹介しました。バーンスタインが夢見た「音楽を通じた世界平和への貢献」という理念を受け継ぎながら、35年以上にわたって育まれてきたこの音楽祭が、今年も夏の札幌で開催されます。

今号では、いよいよ開幕が近づくPMF2026の見どころと楽しみ方をご紹介します。

第1章 PMF2026 いよいよ開幕

PMF2026は、2026年7月7日（火）のオープニング・ナイトを皮切りに、27日（月）まで21日間にわたって開催されます。公演の場となるのは、世界有数の音楽専用ホールとも称される「札幌コンサートホール Kitara」を中心に、札幌芸術の森野外ステージ、道庁赤れんが庁舎、豊平館など札幌の魅力的な会場の数々です。苫小牧、小樽、奈井江、江別など道内各地でも演奏会が開催されるほか、最終日の7月27日には東京・サントリーホールでの公演（サントリーホール開館40周年記念参加公演）も予定されており、PMF2026は北海道から東京へと演奏の輪を広げます。



PMF2025オープニング・ナイト

第2章 受け継がれる好循環 —修了生たちの凱旋と地域への還元

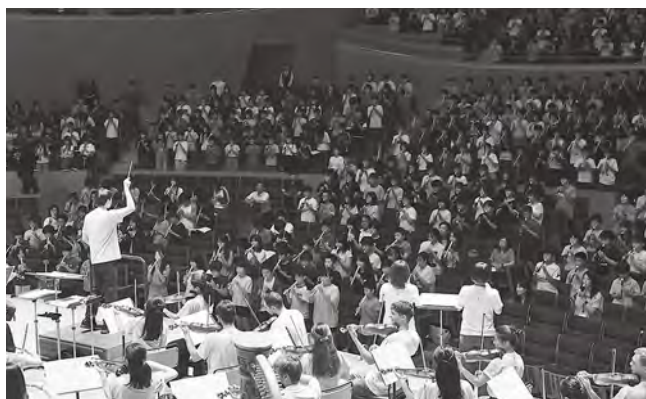
2-1 修了生が札幌に戻ってくる

PMFには世界に羽ばたいた修了生が、指揮者や教授陣の一員として再びPMFの舞台に立つという「好循環」があります。2024年、2025年には、いずれもPMFで指揮を学んだエリヤス・グランディとカーリーナ・カネラキスが客演指揮者として凱旋しています。さらに、北海道唯一のプロ・オーケストラ、札幌交響楽団とPMFオーケストラメンバーが共演する「PMFホストシティ・オーケストラ演奏会」においても、2025年には修了生のダヴィッド・ルンツが指揮台に立ち、今年2026年はアンドレアス・オッテンザマーがその系譜を引き継ぎます。

オッテンザマーは、2008年にクラリネットのアカデミー生としてPMFに参加した後、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者を経て、現在は指揮者としてさらに活躍の場を広げ、今年、「PMFリンクアップ・コンサート」と「PMFホストシティ・オーケストラ演奏会」の指揮者として凱旋します。

2-2 子どもたちと音楽をつくる —リンクアップ・コンサート

リンクアップ・コンサートは、カーネギーホールでの音楽教育プログラムをもとに、札幌市内の小学生がPMFオーケストラと歌やリコーダー演奏を通じて共演する音楽普及・教育プログラムです。PMF修了生であるオッテンザマーが指揮台に立ち、札幌の子どもたちと直接音楽をつくり上げる。かつてアカデミー生として世界の音楽家たちとともに切磋琢磨したこの地で、今度は次世代に音楽の喜びを伝える側に立つ。そ



PMFリンクアップ・コンサート

の姿には、PMFが35年以上をかけて育ててきた「音楽でつながる」という理念が、世代を超えて結実する特別な意味があります。

2-3 街全体が音楽に包まれる —多彩なアウトリーチ公演

PMFの音楽は、コンサートホールの中だけにとどまりません。道庁赤れんが庁舎での「赤れんがコンサート」(7/16)や中島公園内の豊平館での「豊平館コンサート」(7/17)など、いずれも国指定重要文化財に認定された歴史的建造物を舞台にした演奏会では、世界水準の音楽と北海道の文化遺産が交わる特別な体験が待っています。

さらに、都市型水族館「AOAO SAPPORO」での演奏会や、JR札幌駅コンコースに設置された安田侃氏の彫刻「妙夢」前での演奏など、街の中に音楽が飛び出すアウトリーチ公演も予定されています。日本生命札幌ビルに設置されるストリートピアノは、会期中、誰もが自由に演奏を楽しめる場としてご好評をいただいています。PMFの夏は、コンサートホールの外でも、至るところで音楽と出会える季節です。



AOAO SAPPORO PMFワンダーコンサート



JR TOWER 妙夢コンサート

第3章 今年の注目アーティスト

会期は前半と後半に分かれ、前半を率いるのは30代にして欧州名門楽団の首席指揮者を務めるライアン・バンクロフトと、25歳でウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任したヤメン・サーディという次世代を代表する2人の俊英です。後半は、複数の名門楽団で音楽監督を歴任したアメリカの名指揮者デイヴィッド・ロバートソンがPMFに初登場します。

3-1 会期前半 一次世代を担う俊英たちの初登場

会期前半のPMFオーケストラを指揮するライアン・バンクロフトは、30代にして欧州名門楽団の首席指揮者を務める実力者です。PMF初登場となる今年、世界の精鋭アカデミー生たちとどのような音楽をつくり上げるか、大きな注目が集まります。前半のソリスト兼PMFウィーンの教授として加わるヤメン・サーディは、25歳という若さでウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任した、次世代を代表するヴァイオリニストです。ソリストとしてステージに立つ傍ら、アカデミー生の指導者としてもその技と音楽観を直接伝えるというのは、PMFならではの贅沢な機会といえるでしょう。前半のプログラムは、シベリウス、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキーといった20世紀を代表する大作曲家たちの傑作が並びます。

3-2 会期後半 名匠ロバートソン、満を持してPMFへ

会期後半の首席指揮者を務めるデイヴィッド・ロバートソンは、現代音楽の巨匠ピエール・ブーレーズがパリに創設したアンサンブル・アンテルコンタンポランの音楽監督をはじめ、リヨン国立管弦楽団、セントルイス交響楽団でも音楽監督を歴任した実力者。今年がPMF初登場となります。後半のメインプログラムはプロコフィエフの交響曲第5番で、20世紀音楽を得意とするロバートソンにとってまさに本領発揮の演目です。

また、今年にはコンダクティング・アカデミーが2017年以来9年ぶりに復活します。若い指揮者志望者がPMFオーケストラを実際に指揮するこのプログラムは、PMFの教育の幅をさらに広げるものとして大きな期待が寄せられています。

第4章 あなたにぴったりのPMFの楽しみ方

4-1 まずはここから ピクニックコンサートとクラシックLABO♪

「クラシック音楽は難しそう」「コンサートホールは敷居が高い」、そう感じている方にこそ、ぜひ足を運んでいただきたいのが「ピクニックコンサート〈レナード・バーンスタイン・メモリアル・コンサート〉」(7/25)です。札幌芸術の森の野外ステージを舞台に、芝生にシートを広げ、お弁当を食べながら一日中音楽を楽しむこの公演は、ドレスアップも作法も難しい予備知識も必要ありません。未就学児も入場可能で、25歳以下(2001年以降生まれ)の方は芝生自由席が無料です。



ピクニックコンサート

また、小さな子どもから大人まで幅広い世代にクラシック音楽をより身近な形で楽しんでもらうためのプログラム「PMFクラシックLABO♪」が、今年も子どもたちのための特別版「PMFクラシックLABO♪ for KIDS」として刷新します(7/11)。メインプログラム(3歳から大人まで参加可能)は、東京文化会館のミュージック・ワークショップをもとにした体験型コンサート「海の仲間の音楽会～ふしぎな宝箱のひみつ～」。

「TOUCH & TRY」、PMFの過去の演奏録音をBGMに楽しむ移動プラネタリウム、サイエンスショー、藤女子大学の学生と手作り楽器をつくってステージで演奏する企画など、音楽を軸にしたさまざまなプログラムが用意されており、一日を通して家族で音楽の世界を存分に楽しめます。



PMFクラシックLABO ♪for KIDS

4-2 お得なチケット活用術

PMFには充実したチケット割引制度が用意されています。25歳以下（2001年以降生まれ）を対象とした「U25割引」では、学生に限らず一般定価の半額でチケットを購入できます。「ユース・ウイング席」は、オープニング・ナイトをはじめとする対象5公演において25歳以下の方が無料で入場できる制度で、同伴者も1人1,000円で入場できます。10人以上でまとめて購入する場合は10%割引の団体割引も利用可能です。また、PMFをより深く継続的に楽しみたい方には「PMFフレンズ（賛助会員）」への入会がお勧め。チケット割引・先行予約、電子チケット手数料無料、ガイドブック進呈などの特典が用意されています。

第5章 「聴く」以外のPMFとの関わり方

PMFを楽しむ方法は、コンサートを「聴く」ことだけではありません。「支える」「参加する」という形の関わりもまた、PMFをつくる大切な力のひとつです。

PMFへの支援の方法はさまざまです。企業・団体による協賛のほか、前章でもご紹介した「PMFフレンズ（賛助会員）」への入会、個人寄付による「PMFオフィシャル・サポート」、そしてクラウドファンディ

ングを通じた支援も受け付けています。「世界から集まる若い音楽家たちを北海道で育てたい」「この音楽祭をこれからも続けてほしい」、そうした一人ひとりの想いが、PMFの歩みを力強く後押ししています。

また、会期中の運営を現場で支えるボランティアへの参加という関わり方もあります。会場での案内や運営補助など、音楽祭のさまざまな場面でボランティアスタッフが活躍しており、世界中から集まったアカデミー生や教授陣と直接ふれあえる貴重な機会でもあります。コンサートに足を運ぶこと、寄付やクラウドファンディングで応援すること、ボランティアとして参加すること、PMFへの関わり方は、一人ひとりの形にかまいません。どんな形であれ、PMFを愛する人々の力が重なり合うことで、この音楽祭は年を重ねるごとにその輝きを増していきます。

第6章 太平洋に響く、平和への願い

PMFの名称にある「パシフィック（Pacific）」という言葉には、「太平洋」という意味とともに、「平和」という意味が込められています。太平洋を囲む国々が音楽を通じてつながり、平和な世界を築いてほしい、そのようなバーンスタインの願いから生まれたこの音楽祭は、35年以上の時を経た今も、その理念を胸に歩み続けています。

世界に目を向ければ、国と国との対立や分断が深まりを見せる時代です。だからこそ、言葉や文化の壁を越えて若い音楽家たちが一堂に集い、ひとつの音楽をつくり上げるPMFの営みは、今この時代にこそ意味を持つと感じます。舞台の上で音を重ねるアカデミー生たちの姿は、音楽が持つ力、人と人をつなぎ、互いを理解し合う力を、私たちに静かに、しかし力強く伝えてくれます。

PMF2026の開幕まで、いよいよあとわずかです。世界の音楽が札幌に集まるこの夏、ぜひコンサートホールへ、野外ステージへ、そして音楽が飛び出す街の中へ、足を運んでみてください。その場でしか生まれられない音楽との出会いが、きっとあなたを待っています。